

## 集合論・筆答レポート (第一回 2020/11/18) 解答例

1. 「ある実数  $r$  が存在して、任意の自然数  $n$  に対して  $r \geq n$  となる。」

2.  $A \wedge (\neg B)$

3.  $A \cap B = A \cap C$  かつ  $A \cup B = A \cup C$  と仮定する。

$b \in B$  とする。 $b \in B \subset A \cup B = A \cup C$  となるから、 $b \in A$  または  $b \in C$  である。 $b \in A$  と仮定する。このとき  $b \in A \cap B = A \cap C \subset C$  となる。よっていずれの場合も  $b \in C$  となる。以上より  $B \subset C$  である。

条件は  $B, C$  について対称なので、同様にして  $B \supset C$  も成り立つ。したがって  $B = C$  である。

4. (1)  $[-3, 16\sqrt{3}/9]$

(2)  $[-2, -1] \cup [1, 3]$

5. (1)  $f$  と  $g$  が共に全射であると仮定する。

$c \in C$  とする。 $g$  が全射であるから、 $c \in C$  に対して、ある  $b \in B$  が存在して  $g(b) = c$  となる。 $f$  が全射であるから、 $b \in B$  に対して、ある  $a \in A$  が存在して  $f(a) = b$  となる。よって  $c = g(f(a)) = (g \circ f)(a) \in (g \circ f)(A)$  となる。

以上より  $C \subset (g \circ f)(A)$  となり  $g \circ f$  は全射である。

(2)  $g \circ f$  が全射であると仮定する。

$c \in C$  とする。 $g \circ f$  が全射であるから、 $c \in C$  に対して、ある  $a \in A$  が存在して  $(g \circ f)(a) = c$  となる。このとき  $g(f(a)) = c$  であって  $f(a) \in B$  なので、 $c = g(f(a)) \in g(B)$  となる。

以上より  $C \subset g(B)$  となり  $g$  は全射である。

(3)  $f$  と  $g$  が共に単射であると仮定する。

$a, a' \in A$  に対して  $(g \circ f)(a) = (g \circ f)(a')$  と仮定する。 $g(f(a)) = (g \circ f)(a) = (g \circ f)(a') = g(f(a'))$  である。 $g$  が単射であるから  $f(a) = f(a')$  となる。 $f$  が単射であるから  $a = a'$  となる。

以上より  $g \circ f$  は単射である。

(4)  $g \circ f$  が単射であると仮定する。

$a, a' \in A$  に対して  $f(a) = f(a')$  と仮定する。 $(g \circ f)(a) = g(f(a)) = g(f(a')) = (g \circ f)(a')$  となる。 $g \circ f$  が単射であるから  $a = a'$  である。

以上より  $f$  は単射である。

6. (1)  $b \in f(f^{-1}(X))$  とする。ある  $a \in f^{-1}(X)$  があって  $f(a) = b$  である。 $a \in f^{-1}(X)$  より  $f(a) \in X$  である。したがって  $b = f(a) \in X$  である。

以上より  $f(f^{-1}(X)) \subset X$  となる。

(2) 解答例 (全射でない写像  $f: A \rightarrow B$  を作り、 $X \not\subset f(A)$  となるように  $X$  をとればよい。)

- $A = \{1\}$ ,  $B = \{x, y\}$  とし、 $f: A \rightarrow B$  を  $f(1) = x$  で定める。 $X = B$  とすれば  $f(f^{-1}(X)) = f(\{1\}) = \{x\} \neq X$  である。

7. 解答例

- $A = \{1, 2\}$ ,  $B = \{x\}$  とし、 $f: A \rightarrow B$  を  $f(1) = f(2) = x$  で定める。
- $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$  を  $f(x) = x^3 - 1$  で定める。
- $f: \mathbb{N} \rightarrow \mathbb{N}$  を  $f(1) = 1$ ,  $n \geq 2$  のとき  $f(n) = n - 1$  で定める。